

(宛名)

北方工兵第十二大隊補充中隊

第十一班看護卒

榑崎金之助君

(差出)

肥前東松浦郡

徳須恵青年会

(本文)

(1)

一 徳須恵青年会近況 召集又召集ト云フ工合デ

会員ノ重ナル諸君方カラダンノト出征セラレタノ

デ 現在会員ノ数ハ僅ニ三十五名トナツタ 今本会員中
ノ出征及現役軍人諸君ヲ記セバ

堤朝彦君 榑崎常平君 榑崎峯太郎君

井手秀五郎君 小林徳一君 前田利十郎君

井手儀之助君 岩崎栄蔵君 榑崎金之助君

岸本留蔵君

而シテ昨年本会満期大会者トシテ 榑崎禄太郎

前田百太郎ノ両君ヲ合スレハ十二名トナル 広クトモナキ

徳須恵カラトシテハ多数ト言ネハナラヌ 猶本会カ

接シタル報道ニ因レハ 右諸君ノ現所在地ハ左ノ如シ

出征第一軍満州安東県予備病院 堤朝彦君

久留米兵営 榑崎峯太郎君

旅順方面 小林徳一君 井手秀五郎君

福岡兵営 岩崎栄蔵君

小倉兵営 井手儀三郎君 榑崎金之介君

元山津 榑崎常平君 仝磯太郎君 前田百太郎君

不詳 岸本留蔵君 前田利十郎君

本会長副会長會計ハ以前ノ通りニテ幹事左ノ如シ

堤小三郎君 榑崎常蔵君 仝常助君 堤馨君

榑崎喜太郎君 岸本盛太郎君 榑崎倉蔵君

会議ハ毎月旧十日一回ニシテ可ナリ 会員ノ出席モアリテ

議事ノ多クハ実行問題ニシテ 従前ノ盛ナリシ討論ギ

ハ何処ヘヤラ至テ淋シキ方而シテ 其実行問題モ

(2)

ウマク行キシハ出征軍人諸君ノ遺族ニ対シ 田植期日

ヲ早カラシメン事ヲ大字ニ建議シ 且ツ会員より加勢ニ出

デン為メ一般心ヲムクル人多イ為メニ 遺族中ニテハ

案外ノ好結果タリシモノト如シ 暑イ盛デ諸

君ノアタマニウカビツラン年一度ノ樂シ祇園祭礼会デ

景氣ツケニ山ヲ挽カンモノト大字ニ建議シタ処ガ 出征軍

人諸君ガ苦シンデ命ヲ的ニ合戦シツフルヲ見聞シナ

ガラ 我々ノミ山鉾ニ樂ミ暮スノ時デナイトノ意見ニ

テ見合ス事トナツタ 但シ旅巡口ガ陥落シタラトノコトデアル

会ノ情況ハ是迄トシテ サテ

二、出征軍人諸君ノ遺族ノ有様ヲ□□□□□□或ハ

差間ガ有ル向モ有マシヨガ 広ヒ心デ則チ国家ノ眼カラ
解釈シテ御承アランコトヲ□ハ大字同志ノ事ハ隣リノ
コトナドモ聞キタイコトモ有ローカヲトノ老婆心御咎有ナ
榑崎峯太郎君ノ内デハ兩親イト健全妻君モマメニ働カ
レ居レリ 近来病氣ナドアリシヲ聞カズ 常蔵君ノ内デモ
母君ハ不快トカ何トカ聞タガ見レバ格別ノ変リハナイ 田
草等モ一番幼苗トモ早ク無事スنداトノ事 兄弟達
モ無事デ 多一郎君ハ学校使丁ニ雇ハレ居ルガ今暑中休
課中デ農業ノ加勢中 常□平君ノ遺族ニ於テモ無
事田ノ草等ハ親切ナル大川原親族之内ヨリ来ラレ加
勢ナドアリ居レリ 母君ハ農業ノ余暇学校使丁ノ助ケ
ニテ小使錢ハ不自由ナ□ランガ 井手秀五郎君ノ内ハ
御承知之通り父君昨年死去セラレテヨリ老母ト妻君
ト小児トニテ農業専務ノコトナレバ其苦勞察セララ
(3)
併シ何レモ健全□ダ不幸ノ声ヲ聞カズ 軍人□愚会
ヨリハ全員ヲ送レリトカ 井手儀之助君ノ方モ無事坑
木売捌ニ父君ノ御心配トカキヌコハ御一人ニカゝワル
コトニ有ラザレバ心ヲ勞スル迄ノコトハナカラン 金物ト醬油トナ□
売□口悪シカハマジク察セラル 留蔵君ノ内モ無事 万
蔵君ノ妻永ラクノ病氣コレノミニ心配ナルラン 木賃ノ泊
リ人祇園祭前後弥ニ多カリテ 磯太郎君ノ内祇園
盆等打続キ 少シハ商ヒアランモ兎角不景氣ハ免カレ
難シ 一身以テ家族ヲ扶養セシ前田利十郎君入營
センコトトテ父君ノ心配察セラル 併シ世間ハ鬼ノミナラズ

見捨ツル神ニハ助クル神ベシテ 戦時ノコトニモアレバ ヨシヤ
利十郎君ガ戦死ストモ遺族ハ殺スコトアルマジベシテ
近頃左程御疲勞ニモ見受ケズ 何分方モ御健全仕
事ヲ勤メ居ラルレバ御心配ハ御無用 三千世界ニ子ヲモ
ツタ親ノ心ハ皆一ツナランモ 喜太郎君モサシテ持病重カラズ
金之助君ノ如キ遺族顧慮スルニ足ラズジヤ 橋向フ前田
小林両君ノ宅ハ依然商業繁昌 内心ノ御苦勞モ察セ
ラルレド シツカトシタ兄弟モ有リ 是又御心配ハ従事ナ
ラン
三以上出征軍人諸君ノ出發後 徳須恵ノ有様ハ左程ノ
変リタル事ナシ 不景氣ト云ヘバ炭山ノ影響デ余リ
ノ疲弊ニモ陥ラズ 左リトハ対シタ商売モ行ハレ居ラズ 未
ダ門ヲ閉グ可キモノハ之ナシ
北波多村ヨリ云ヘバ出征軍人遺族ニテ意外難渋ノ向モ
有ラン 併シ余所ヨリ炭坑ニ対シ何カ仕事モアレバ他国ニ
(4)
聞ク如キ甚ダシキコトハ今迄耳ニセズ
四、農業ハ徳須恵ノミニ云ヘバ大洪水ノ為メ野菜ハ不結
果ニ在ラズト雖トモ 稻ハ田面ニ大量ノ肥料ヲ流シ込ミシ
為メ 且ツ田植後天氣宜敷タメ發育充分 近年ニ見ザル
豊年ナランモ虫ト出穂頃ノ洪水トガ氣遣カハレ 陸穂モ
ヨク 大豆モ一般ニ豊作キウ ハ早ヤ枯レ 茄子ノ後レバセ
ナガラ三ツニ熟スルモ需用ニ充タズ能ハズ多数買入ル
ル方 ゴボーサトイモハ今ヲ盛ト培養セラレツゝアリ
五、工事少イ唐津町ナドハ大工ノ休メルモノイト／＼多ク 諸

般工業大イニ不振 総シテ職人ハ仕業ナキニ□メル

□ナリ

六、当□地時候目下土用中ニテ暑サ極度ニ達シ 日中寒

暖計九十三四度ニ昇降ス シカシ夜分ハ冷シキコトアリ

雨降ラザル事十余日ナルモ作物ハ枯死ノ憂ヒナシ

七、過般ノ水害ニツヒテ語ラン 兩日出水 先ツ前日ノ洪水ガ

関ノ山ノ処 翌日引続キノ洪水ノ為メ水嵩非常ニ増

加シ 遂ニ馬場ノ川土居ニ三十間破壊セラレ 見ル間ニナイ

ヤガラノ灌ヲ現出セシ為メ 徳須恵一円□水床上ニ及ビ

カ□□軒床ニ達セザル処アリシモ 之レガ為メ田面ニ於テ

五六反以上損害ヲ蒙リ 家財ヲ流失セシモノモ尠カラズ

出征諸君ノ内デ床上ニ達セザリシハ峯太郎栄蔵尚

君ノ宅ノミナリ 而シテ今ニ堤防ノ修繕出来ザレバ万一ヲ

慮リ 未ダ豊ヲフロサズル家モ多々見受ケ 又洪水

ト来テハ実ニ困ツタ土地ナリ

八惜シム可キハ我青年会員トシテ実戦ニ加ハリ居ル人ノ少

(5)

数ナルヲ怨シトナスモ 軍隊ノ編成ハ之レヲ如何トモスル

能ワズ 併シ井手秀五郎小林徳一君ハ旅順方面ニ向イタ

ルモノヽ如シ 始メ□□第一軍ニ從ヒ長キ間安東県ニ在リテ

衛生ニ尽力セラルヽ堤朝彦君ノ労多謝スル所ナリ 元山

守備ノ兩榑崎前田三君亦家事ヲ顧ミズ 国家ノ為

メ軍務ニ従事セラルヽ 過般ノ露艦攻撃ニ際シ武器

不十分ナル為メ一ノ発砲スルナク難ヲ避ケラレシハ 軍人

トシテ如何程残念ナリシ 実ニニクキハ浦汐ノ艦隊メ

早く轟沈シタキモノジヤ

九目下ノ戦況充分御承知ナランモ 第一軍ハ己ニ遼陽

奉天ノ附近迄テ進軍シ居ルモノヽ如シ 塞馬集摩

天領ハ二回敵ノ逆襲ヲ受ケテ撃退セリトノコトデア

第二軍ノ勇マシキ有名ノ金洲南山ノ合戦後 復洲

ヤ得利寺ヤ蓋平迄占領シ 遂ニ一週間前適ノ大

□レ頼ム 大石橋宮口迄テ右領シタトノコトデア

聞ク我々ハ実ニ愉快デ／＼デタマラヌガ 亦思フ如何ニ

出征軍人ノ暑熱ヲ冒之地ノ険ヲオソレズ

敵ノ防備ヲ破懷^感シテ功ヲ□クスルコト百戦ニシテ百

勝トハ蓋シ 我日本神軍ノ謂カ右ノ一軍ト二軍トノ間

ヲ縫ウテ戦ヒ進ミツヽアルモノハ大孤山上陸軍ト称シ

居レリ 而シテ第二軍方面ノ海域ハ敵□

ニ放棄セリト云ヘバ 以上ノ三軍合撃シテ遼陽奉

天ヲ陥レンハ遠キニ有ラサル可ク思ハル

海軍ガ旅順攻撃スル□□□□陸軍其□□面ヨリ攻撃

スル筈ナリト 袋ノ中ノ兎然タル旅順落ちタルモ同様

(6)

ナガラ我手ノ中ニ帰スルヲ待ツコト□□□□ニ止ラズ

云フモイマハシキ浦汐艦昨今東京湾附近ニ在リト聞ク

□レガ大胆ナル 或ハ血迷ヒタルカト察ヒラルレド 到ル処武

器ヲ有セサル商船ヲ撃沈シ 我ニハ我海軍モ呆レ居ナラ

ンガダシ族順ト浦塩艦体命ヲ保ツモコヽ僅カノ間ナル可シ

ナクサ／＼役場建築セラレテ立派ナ大キナ建物ヲ徳須

惠ノ宿ニ見ル様ニ成ツタ 郵便電信局ガ役場ノ隣リ
前田ノ新家ト移ツテ 之レ亦大修繕ノ上都風ノ局ト
ナツタニ軒ノ見事ナ家ガ相並ンデ 今迄サムシカツタ
下ノ宿ガ忽チ賑カシイ変ジタ ◎出征軍人諸君軒
ニハ国旗ヲ何時モ掲ゲテアルデ 一見遺族ノ家タルコトガ
ワカル ○近頃ハ又神社ノ森ノ高イ木ノ梢ニ国旗ヲ
翻シアル見ル 軍人遺族妻子達ハ命日或ハ其他ニ
於テ氏神ニ通夜ヲナシテ出征諸君ノ健全ト国家ノ
安寧トヲ祈ツテ居ル 近□近国皆ソシ風ハ行ハレ
各神社仏寺ニ於テモ戦捷ノ祈念ハ止マナイ 国民ハ
期イシテ精神コメ居ルモノ戦ニ負ケルモノカ出征諸君
安心シテ可ナリ

○我北波多村ニハ今日迄未ダ伝染病ナドノ発生セシヲ
聞カズ一般少キ模様ナリ 貴地ハ如何

八月一日記

※地図あり